

アフリカ平和再建委員会 活動レポート



2002年9月

ルワンダ

① 女性洋裁技術訓練活動

実施状況 ARCは、当初4月末でARTCFの今期洋裁技術訓練を終了する予定でしたが、訓練期間が短い等の声が出ていたこと、また訓練生の意見、感想等を聞き出し、訓練工場の運営状況と訓練の成果等を評価する為に、2000年の訓練開始時からの全訓練生20名と訓練所スタッフの面接を数日に渡って行ないました。

その結果は訓練生からは、

- 訓練期間、時間ともに短か過ぎる
- 洋裁訓練を受けることができることは非常に役立ち良い
- 指導者の指導は適切で良い
- 子供がたくさんいるので訓練に確実に通うのが困難である
- 訓練終了後、ミシンを購入したり、働く場所を借りる金銭的余裕が無いので不安である

という意見が多く聞かれ、訓練指導者からは、

- 訓練期間、時間ともに短か過ぎる
- 訓練生の遅刻、欠席が多い
- 日本からの訓練資材購入資金送金が遅れ資材が購入出来ず、訓練が滞る時がある
- あまり読み書きができない訓練生は訓練についてくるのが難しい
- 訓練生は単に縫製を学ぶのみでなく様々なデザインを学ばなければならない

という意見が出ました。

ARCはその後、ARTCF本部とも訓練時間、期間について相談しました。若い女性は毎日来れるかもしれないが、年輩の女性は家計を支えたり家のことを含め用事が多いので無理だとのことでした。面接時に多くの訓練生



が毎日来たいという希望を持っていたのですが、来ると



言うておいて実際は来られずに訓練を休むことになるだろう、ということで、現状の週3回半日の訓練を9月まで延長することにしました。また、来期の訓練も現在と同様に週3回半日の訓練を各5名ずつ、合計20名が1年間訓練することにしました。

また訓練生の中から、訓練修了生が同じ場所で皆協力して働けると良いという意見も出ており、これはルワンダの二つのグループ（ツチとフツ）の女性達が協力して働くという和解にも繋がり非常に良い意見だと思われます。また、彼女達の中から自発的にそういう協力の姿勢が生まれることは大変意義の有ること、実現出来ると良いと思います。

その後 5 月に ARC は、訓練生全員とのミーティングを持ち、訓練期間延長を知らせました。訓練生の中からは拍手が湧き起こりました。当初ヨソヨソしかった訓練生達が、最近随分明るくまた意志表示をするようになってきたことが見受けられます。面接等を通して自分達の意見を ARC に伝え、生かしてゆくことが出来ると知って自信とヤル気が出てきたように感じます。



訓練生は、スカート、シャツ、ズボン、子供服、ドレスの縫製訓練を修了した現在、デザインを学習しています。指導者によるとデザイン学習は 6 ヶ月程度かかるというのですが、9 月までの 5 ヶ月で習得せねばなりません。また訓練生の中からはルワンダお土産物のテキスタイルバッグや動物の作り方を習いたいという発言がありました。

限られた訓練時間の中でどれだけ習得出来るか不明ですが、これ等の製品は輸出も可能で、町で店を構えなくとも自宅で製作して収入につながる為、特に村に居住している訓練生には適していると思われれます。



(報告：高美穂)

● 受講生の紹介

◎NERAGIRE Hariette (16 才)

父は戦争で亡くなり、母は路上で野菜などを売っている。市場で荷物運びをしている 26 才、無職の 21 才、18 才、彼女自身、初等教育 5 年 14 才、12 才、初等教育 3 年 10 才、初等教育 2 年 8 才の 8 人兄弟である。一家は Nyamirambo の Kimisagara 村に住んでいる。

◎MUKAKAJE Eugene (?才)

1994 年の戦争で夫を亡くした。13 才、12 才、7 才の 3 人の子供がいる。全員初等教育を受けている。他に、16 才の戦災孤児を養っている。彼女は戦後叔母に養われていたが、その後叔母も亡くなった。初等教育 6 年生まで洋裁のコースを受けたことがあるが、修了出来なかった為、訓練を受けることを希望している。

◎MUKAMANA Zainabu (25 才)

父は戦争で亡くなり、市場で食品を売っていた母も戦後亡くなった。彼女はミニバスタクシーの運転手である夫との間に、4 才と 1 才 4 ヶ月の 2 人の子供がいる。20 才でバイクタクシー運転手になる許可を持っている弟と、家政婦が同居している。訓練所の近くに住んでいる。



今後の活動 訓練は軌道に乗りつつあり、受講生も将来に夢を膨らませるようになりました。当初よりこの活動の課題は、洋裁の受注増による自立的経営です(洋裁技術指導活動の)。今後はこの「自立化」という課題に一層力を入れていかなければなりません。電気、水道電話代等の工場経費は売上で賄えるようになってきましたが、訓練所の自立にはまだまだ程遠い状況です。しかし様々な困難の中で訓練を実施している彼女達が、少しずつ明るく、自分達の意志で動きだそうとしていることは、何事も受け身

精神の強いルワンダ社会では非常に価値の有ることであり、我々も彼女達と共に訓練所自立を目指してこれからも努力しなければなりません。

10月から3ヶ月の予定で、**七尾明紀（ななお・あき）**がルワンダに赴任します。彼女は元青年海外協力隊員で、ルワンダでは現在の洋裁技術でいかに収益につなげていくかをテーマに、活動を行っていきます。

② UMUCO MWIZA 小学校増築及び周辺住民雇用創出活動

実施状況 2001年3月に、ARCはローカルNGOのADESOCとの間で協議を行い、ADESOCの運営する小学校UMUCO MWIZA（現地語で平和の為の良い教養の意）の教室増築による周辺地域の雇用創出と児童の就学支援を、計画しました。そして2002年5月末から校舎の建築が始まりました。この地域は、虐殺後難民が帰還した時に森を切り開いて作られた新しい地域で、子供達が通える距離に学校が無く、その為にADESOCが現在の小学校を創立しました。



政府は2010年までに全ての子供達が教育を受けることを目標に努力していますが、予算も、必要な有資格教師もまだまだ不足しており、各地でNGOが尽力しています。現在この学校では約70名の子供達が勉強しています。使用出来る教室は2つなので、小学校1年と、それ以下の子供に分けて、教師が各1名います。小さい子供達の方は手が掛かる為、教師以外にもう1人アシスタントがいます。各々の教室には、以前ARCが寄付した15組の机、椅子が並んでいます。現在この2つの教室の並びに3つ目の教室がほぼ完成状態です。

今回ARCが支援するのは、ADESOCの計画している新しい校舎（3教室）のうちの1つ目の教室です。ADESOCは、この2つの校舎の間に更に、教師、職員の為の小部屋を建築する予定です。

ARCは建築労働者への賃金を賄うことで建築を支援するのですが、ADESOCとの協議で、建築手伝いに子供達の親を雇うことで、収入の無い彼等に子供達の学費を捻出してもらおうと話し合いました。しかし給料として全て払ってしまうと、授業料を払わない親が出てくるので、授業料を先に差し引かなければいけないとのことです。

私立の学校とはいえ、政府の学校と同じ学費、1学期につき2000フラン（約600円、1年に3学期ある）で、しかも滞納する保護者も多い為、何とか工夫して学校を運営しようとして一所懸命です。6教室完成して政府に認可されれば、政府からも助成金が出るということです。（報告：高美穂）



今後の活動 建設工事終了後は、親達が働いて稼いだお金で子供達が学校に通えることとなります。子供達の様子を、また後日ご報告したいと思います。

③ ARC ルワンダ事務所

ARCは4月に、念願であったルワンダにおける「国際NGO登録」を完了しました。複雑で時間のかかる手続きであることから、手続きには1~2年かかるとも言われていたのですが、この登録がされな

いと、公式には団体としての活動は出来ないことになって います。今回登録が完了したことで政府と公式な関係を結んだことになり、今後政府関係とも様々な協力が出来ると思います。この過程で、ARC は地方行政大臣、ジェンダー大臣とも面会し、公式パートナーシップの始まりを約束しました。

④ ARCルワンダ事務所メールマガジン発刊！！

ARCルワンダ事務所より、遠くて遠いルワンダのことをもっと身近に感じて頂く為のメール通信 を開始いたしました！ルワンダのニュース、文化、人々、社会、NGO 等について、ルワンダ駐在代表・高美穂が思いつくままカジュアルな形で、また携帯メールにも配信出来るサイズでお送りします。購読は無料です。どなたでも登録すれば御覧になれます。

登録はこちらから！ →→→ <http://www.egroups.co.jp/group/arcrwanda>

⑤ バナナカード情報

カタログ作成 バナナカードの**カタログ**を作りました！個人向け、商店向けの 2 種類があります。ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください！（電話：045-439-4003）

バナナアートのデザイナーのご紹介 ルワンダのバナナカードの美しさに、「だれがデザインしているのか？」という問い合わせが時々あります。現地の高美穂がインタビューしてきました。

ポシエン・ンニヤーンヒンディ (Pocien MUNYANKINDI)



1969 年、ブタレ (Butare) 県のサベ (Save) で、ビジネスマンの父と耕作をしていた母との間に生まれる。小学校 7 年生を修了した後、大工か土木技師になって欲しいという父の意向で、個人の土木技師について仕事を覚える。仕事はうまくいき約 7 年間続けたが、この仕事は安定していないことに不満を覚え、また子供の頃から絵心の有った彼は、1990 年に開設されたアルティザン・ナタリ (Artisan NATARI) に参加する。この学校はブルンディ人バナナ工芸作家が始めた学校で、当時 20 名の生徒が参加していました。バナナ工芸はタンザニアで始まり、この作家もタンザニアで工芸を覚えるルワンダで初めての学校を開設したのです。しかし、当時このような

工芸に価値を認める人は少なく、彼の父も反対していました。この学校では計 4 年間、バナナの樹皮の選定、剥し方、下準備の仕方から始めて、グリーティング・カードの作り方、ザル貼り絵の作り方、ベニヤ板の貼り絵の作り方、また絵の描き方やその他の工芸品の作り方を習得しました。1 年以内にグリーティング・カードを制作出来るようになっていたので、学校に行きながらカードを作って、キガリから来る人達に売ってキガリで販売されるようになっていました。

その後 94 年 4 月に虐殺が始まり、当時先生と一緒に工芸品の販売に出掛けていたポシエンは、そこで避難します。しかし、実家に残っていた家族は、母と小さな弟一人をのぞいて全て殺されてしまいました。彼はフツでありながら家族の殆どを失った人達の一人です。何人兄弟姉妹がいたのかという質問には、間を置いて、一人一人数えることは思い出すのが辛くて出来ない、と答えました。彼の母は殺されなかったようですが、虐殺以来行方不明で、何が起きたのか今もまだ全然分かりません。

7 月に虐殺は終わりましたが、先生や他の生徒の行方は分からなくなり、未だに分からず終いです。彼は、戦後使われなくなっていた建物をみつけ、そこを借りて 60 人の生徒を集め、バナナリーフ工芸を教え始めました。ここで約 4 年間工芸を教えながらカードを作って売っていました。

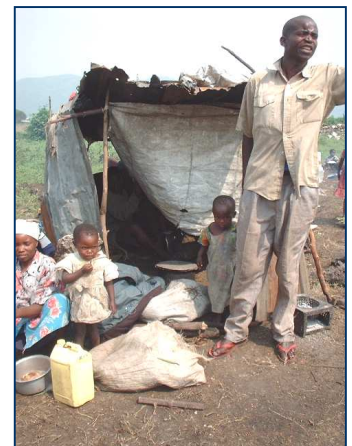
時々キガリにカードを売りに来ていたポシエンは、戦前 ARTCF でバナナリーフ・カード作りを教えた女性と知り合います。彼女は、ポシエンに ARTCF で女性達にカード作りを教えるように勧めます。しかし、彼女はその後亡くなり、1999 年にポシエンはキガリへ引っ越して ARTCF と協力するようになります。彼は自分が教えていた学校で一番出来の良い 5 人もキガリへ連れてきました。彼等とカードを作りながら、ARTCF のメンバーにカード作りを教えて、ARTCF に市場をみつけて貰うようになりました。

⑥ テレビ番組制作に協力！

「風よ伝えて…ルワンダの碧い空」（テレビ朝日系列で 9 月末か 10 月はじめの日曜日の昼に放送予定）という番組が企画され、事務局長の小峯とルワンダ代表の高は、制作に協力してきました。あまり伝えられないルワンダの「いま」を紹介できる番組になればと思っています。番組中に、ARC が協力しているバナナカード工房も出てきます。ぜひご覧下さい！

コンゴ民主共和国～ニーラゴンゴ火山被災者支援～

おかげさまで、2002 年 1 月 17 日に発生したコンゴ民主共和国東部のニーラゴンゴ火山噴火による被災者支援に、**38,549 円**の寄付金をいただきました。ありがとうございました。ARC ルワンダ事務所を通じて、現地の NGO とともに、被災者支援活動のために使わせていただきます。募金の使途につきましては、あらためてご報告申し上げます。



ソマリア

ARC ソマリアワーキンググループ主催写真展「MAD SOMALIA」を 2002 年 1 月から 4 月までの間に 3 回（日吉、横浜山下町、横浜桜木町）開催いたしました。足を運んでいただいた方々、募金をして下さった方々、本当にありがとうございました。寄付金は、5 月にメンバーの写真家・谷本美加がソマリアに入った際、現地の精神障害者施設のために、使わせていただきました。

まず、募金の合計額は以下になりました。

インターバンド NGO ショップ「アマホロ」展示会場にて	¥ 19, 446
横浜市国際交流協会国際交流ラウンジ展示会場にて	¥ 15, 695
フォーラム横浜（横浜ランドマークタワー）展示会場にて	¥ 31, 614
お振込み	¥ 35, 000
アマホロでの募金活動より	¥ 7, 780
=====	
合計	¥ 109, 535

募金は、ソマリア北部のボラマという町にある精神障害者施設“ナスルッラー”に対するサポートというかたちで使わせていただきました。“ナスルッラー”は、ソマリアの NGO で、ボラマでたった一つの精神障害者をケアする施設です。といっても、資金不足で施設と呼べるような建物はなく、患者たちは粗末なテントで、あるいは野外で、風雨にさらされながら寝起きをしています。食事もとても満足なものとは言えません。精神障害に加え、住・食生活環境の劣悪さから、その他の身体的疾病を併発する患者が当たり前のようになっています。そこで今回は、風雨、特に雨から体を守る為の対策としてテント用ビニールシート、そして毛布、食料、医薬品などを、“ナスルッラー”のスタッフと共に、現地で購入しました。詳細は以下になります。

テント用ビニールシート20枚(1枚10\$)	200\$
中古の毛布30枚(1枚6\$)	180\$
医薬品(安定剤・ビタミン剤・鎮静剤など)	14\$
米100kg・小麦粉100kg・ソルガム100kg	
サラダ油・砂糖100kg・紅茶1kg・石鹸	240\$
大なべ	50\$
やかん	20\$
皿とカップ12個づつ	50\$
小麦粉を練るバケツ・なべ(小)・洗濯桶	70\$
合計	824\$ (108,685円)
	(1\$: 131.9円)

上記の食料で、おそらく1ヶ月程度は患者の食事がまかなえるものと思われます。

2ヶ月目以降の食事はどうするのかと問われると、今のところ継続支援というかたちは難しく、断続的なものになりますが、次回に向けて良策を考えていこうと思っています。

なによりも、患者・患者の家族・現地のスタッフ・医師はもとより、ボラマの地方自治体の方々にも大変喜んでいただき、サポートした方としても大変嬉しく思っています。また、ボラマでは今回のサポートがちょっとした話題になり、地元のTV局・ラジオ局・新聞社が取り上げてくださいました。こういった活動が、精神障害者に対する理解につながるといいと思っています。(報告：谷本美加)

国内での活動(2002年～)

1月15日(火)～20日(日)

「MAD SOMALIA」写真展(日吉・インターバンド NGO ショップ「アマホロ」)

2月4日(月)～13日(水)

「MAD SOMALIA」写真展(横浜・横浜市国際交流協会)

2月17日(日)

「小田原地球市民フェスタ」セミナー「平和を作ること」と講師(小峯茂嗣 事務局長)

3月29日(金)～4月3日(水)

「MAD SOMALIA」写真展(横浜・フォーラム横浜)

5月9日(木)

「アフリカンマーケット」(ニーラゴンゴ火山被災者支援イベント)出展(大森ベルポート)

5月10日(金)

「地域研究(アフリカ)」早稲田大学法学部講義招聘講師(小峯茂嗣事務局長)

5月18日(土)、19日(日)

「アフリカンフェスタ 2002」出展

これからの予定

10月5日(土)、6日(日)

「国際協カフェスティバル」(日比谷公園)ブース出展

10月12日(土)、13日(日)

「よこはま国際協カまつり」(横浜産業貿易センター)ブース出展

* ブースのお手伝いさんも募集しています! お気軽にお問い合わせください! (intrband@gol.com)

アフリカ平和再建委員会 2001年度(2001.4.1~2002.3.31)収支

収入の部		支出の部	
海外活動助成金	4,262,000	海外事業費	3,397,434
国内活動助成金	1,385,000	国内事業費	51,975
無指定寄付	1,249,100	人件費	2,033,140
会費	238,000	事務所使用料	600,000
物販売上	554,274	通信費	221,907
受託事業	0	広報費	100,000
応援基金	102,500	文房具	58,864
利息金	131	記録費	12,691
コンゴ火山支援寄付金	22,000	機材費	223,922
		交通費	182,230
		物販関係経費	18,932
前年度繰り越し	-205,404	雑費	14,527
合計	7,607,601		6,915,622
		繰越金	691,979

ARCの活動への応援をお願いします！

●**会員**（個人会員 5,000 円／年、団体会員 50,000 円／年）

ARC の活動全般を支えていただく会員の方には、ニュースレター「*Peace Building*」（季刊）をお送りいたします。また海外での活動の報告をお送りいたします。

●**寄付**

ARC の活動にご賛同くださる方の寄付をお待ちしております。海外での活動報告をお送りします。

振込先 郵便振替口座番号 00250-2-57833
名義人 アフリカ平和再建委員会

●**ARC サポーターズ**

ARC の活動を支援する、ボランティア・チームです。今年の 8 月から活動を開始しました！

現在のところ、イベント出展の準備、バナナカードの拡販、寄付金集めなどに取り組もうとしています。将来的には、海外プロジェクトの運営や、ARC の正規スタッフへの採用の可能性もあります。

ただいま 毎週金曜日の午後 2 時から ARC 事務所にて活動中！ 誰でも参加できます。お気軽にお問い合わせください！

ご支援ありがとうございます！

Thank you!

(2001 年度の新規／更新会員、寄付をしてくださった方々、資金助成団体)
鈴木通正、アーユス - 仏教国際協力ネットワーク、渡辺貴範、小峯茂嗣、福富義太、栗原正明、佐藤研太、佐々木宏帆、首藤信彦、(財)庭野平和財団、小峯和茂、鯨井多加子、松本幸花、川井美佑、倉持睦子、道津美岐子、引田幸伸、AAA HIROSHIMA 奥田耕一、皆川恭子、フォーラム横浜有志、少林寺大館三ノ丸道院、入江路代、饗場和彦、加藤晃也、齋藤隆祐、上島一晃、山際百合子、石井由希子、石井稔、坂井正明、倉持睦子、矢内原勝、山本律子、上松百合、守口順子、小川祐子、片岡昌子、前田慶一、中島太一、(財)日本国際協力システム、生方典子、不破吉太郎、山本律子、小林佳久、神川辰子、中村牧子、野田千香子、玉井真理子、武内進一、国際ボランティア貯金 (順不同／敬称略)



孤児院の子どもたちとールワンダ(2002年)

アフリカ平和再建委員会 (Africa Reconciliation Committee: ARC)

〒222-0026

神奈川県横浜市港北区篠原町 2816-22

Tel : 045-439-4003 Fax : 045-439-4004 E-mail : intrband@gol.com

ホームページ <http://www2.gol.com/users/intrband/arc>

